

# 令和3年度 実験・実習費に関する調査の結果について

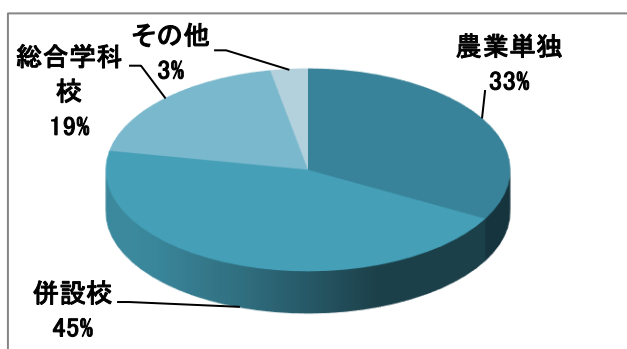
全国高等学校農場協会振興局

## 1 アンケート協力校について

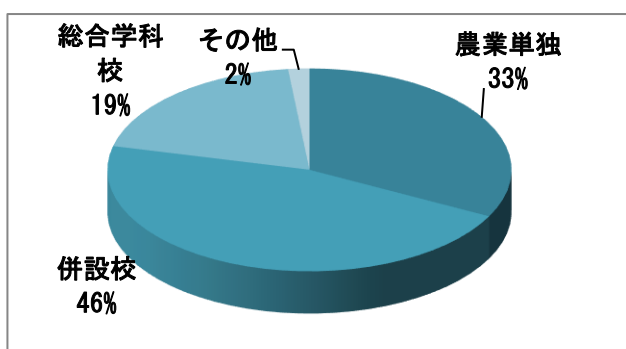
支部名	学校数	農業単独校	併設校	総合学科校	その他
北海道	29	17	6	6	0
東北	42	15	14	12	1
関東	68	15	38	13	2
北信越	33	13	6	13	1
近東	63	23	31	9	0
中国	29	7	16	6	0
四国	29	8	15	5	1
九州	60	18	37	5	0
合計	352	115	163	69	6

## 2 校種

昨年度とほぼ同様の割合であった。



昨年度

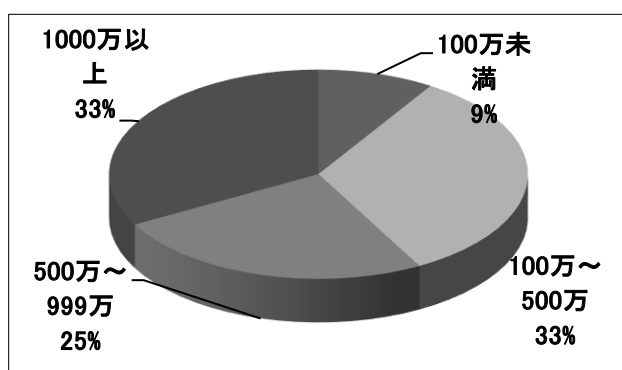


本年度

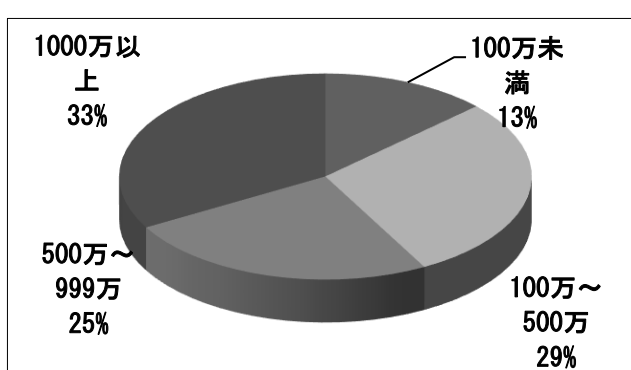
## 3 収入を伴う実験・実習費について

### (1) 令和2年度農場売上金額

500万円以上の売上割合の変化はないが、500万円以下の場合には全体的に売上金額が減少している。



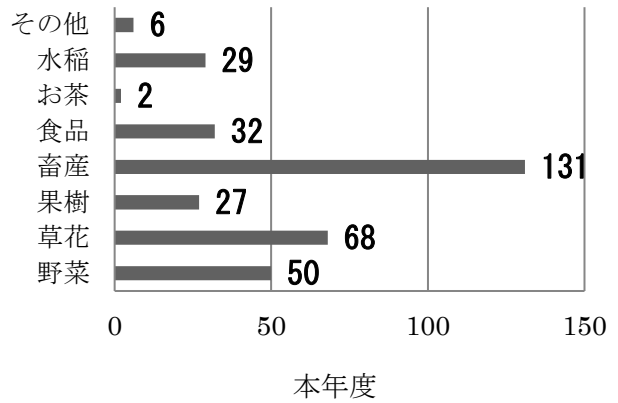
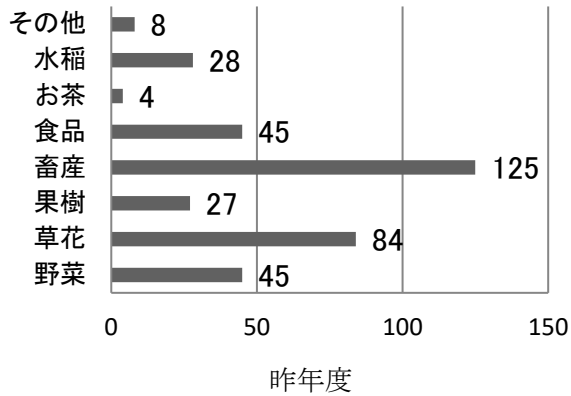
昨年度



本年度

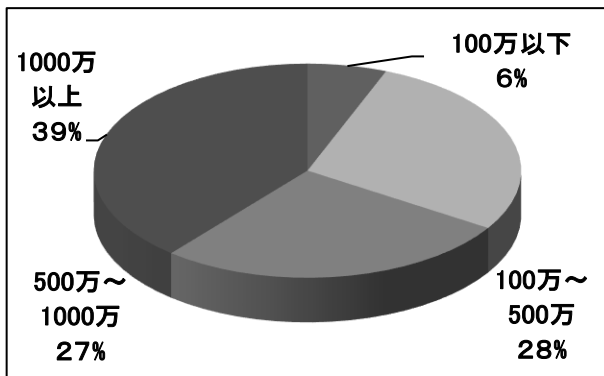
(2) 最も収入の多い分野

最も収入の多い分野は畜産で、昨年とほぼ同様の結果になった。以下、草花、野菜、食品（野菜と同数）が続いた。

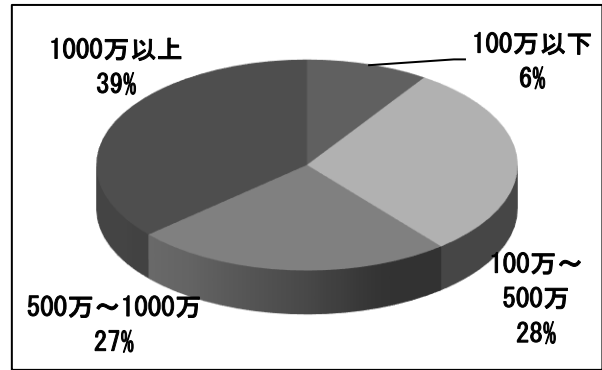


(3) 令和2年度農場支出金額

昨年度とほぼ同様の割合であった。



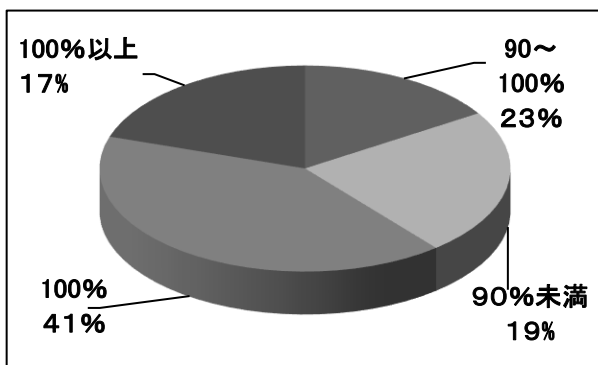
昨年度



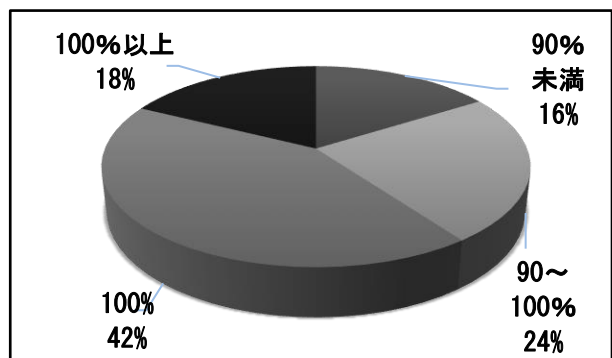
本年度

(4) 支出金額は売上金額の何%ぐらいを目安にしているか。

昨年度とほぼ同様の割合であった。



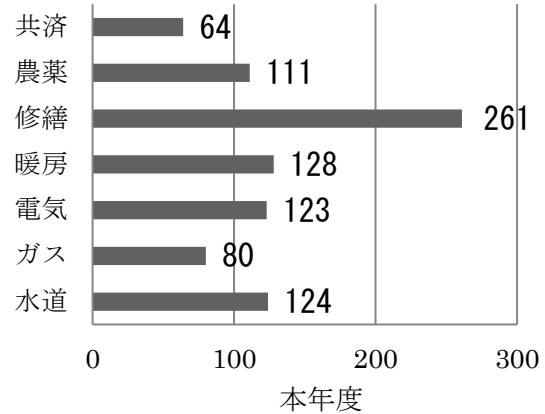
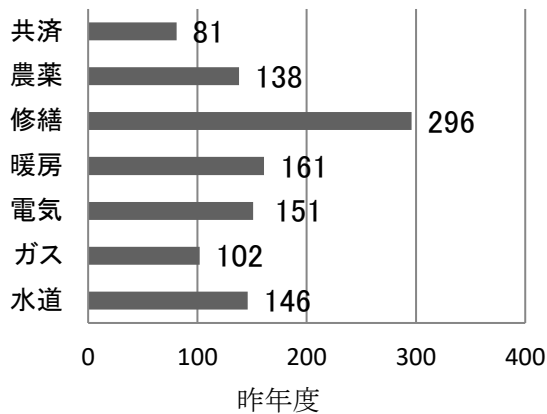
昨年度



本年度

(5) 農場共通経費について

昨年度同様、「修繕費」が最も多かった。次に、「暖房代」、「電気代」、「水道代」、「農薬代」、「ガス代」の順で多かった。

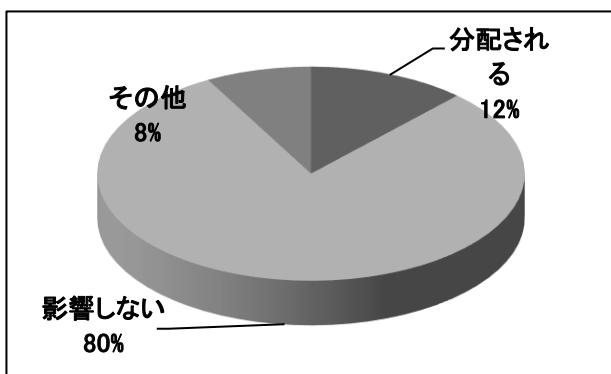


(6) 農場共通経費に関する主な意見

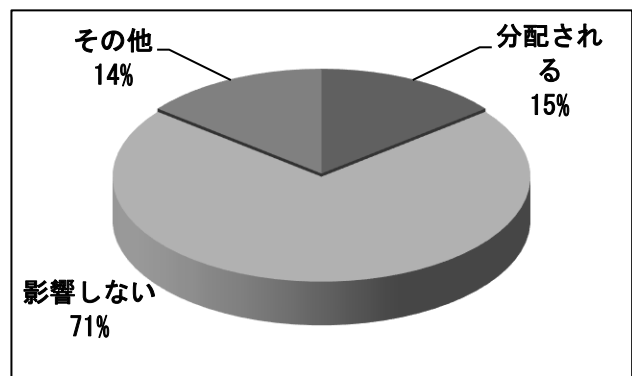
- ・機械、設備等のメンテナンス料の確保ができるようにしてほしい
- ・年々予算が減少傾向にあり、修理等に負担がかかっている。
- ・予算配当された部門での収支運営が望ましい。燃料費等の高騰があるので見通しが立てにくい。
- ・各部門の支出を抑えて共通経費の捻出をしている状況である。共通経費は別枠を希望。
- ・共済加入費用を認めてほしい。・車検、修繕、手数料、燃料については別途県費等で負担希望
- ・県からの需用費不足 ・修繕費を県費で行なってもらいたい
- ・学科減でも農場（管理）面積は変わらないので、減額しないで下さい。
- ・温室を制御するための通信費など、これまで計上していなかった費用が必要になってきた。
- ・収入を上げる学科が収入を伴わない学科を補っている傾向がある。
- ・産振備品の新規購入が難しくなっている。100万円以上のものを購入できる予算措置希望。
- ・各部門から支出の10%を共通経費に拠出してもらっているが、それが難しい部門がある。
- ・畜産の収入は大きいですが資料の価格高騰、飼料つくりの役務費や大型農業機械の修繕が大変大きいので、機械の更新を進めないと支出が大きくなっていく。
- ・予算規模が小さいため、修繕費の工面に苦慮している。
- ・予算が削減されていく状況で、消費税増が重なり計画的執行が厳しい。
- ・施設・設備が老朽化してきているため、修繕を必要とするが、修繕費を賄いきれない 等

(7) 農場売上金額が予定額を上回った場合、当年度予算に増額して分配されますか。

昨年度とほぼ同様の割合であった。



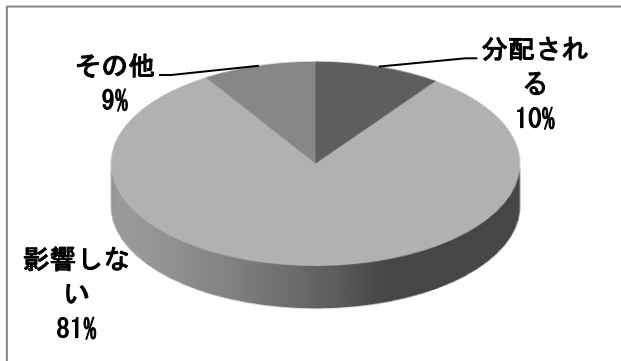
昨年度



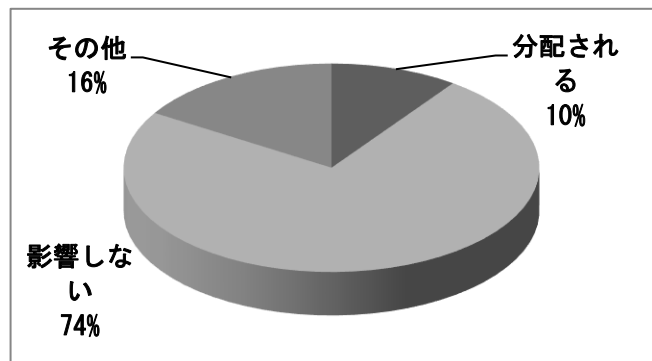
本年度

- その他 ・翌年や2年後に分配される。 ・補正予算を組めば分配される。
- ・上回った金額の一部や1/2が分配される。等

(8) 農場売上金額が予定額を上回った場合、次年度予算に増額して分配されますか。  
 昨年度とほぼ同様の割合であった。



昨年度



本年度

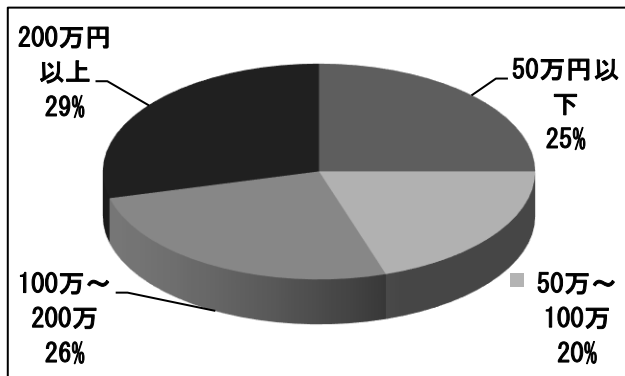
- その他 ・翌々に分配される。 ・上回った金額の一部が分配される。
- ・年度による。等

## 5 収入を伴わない実験・実習費について

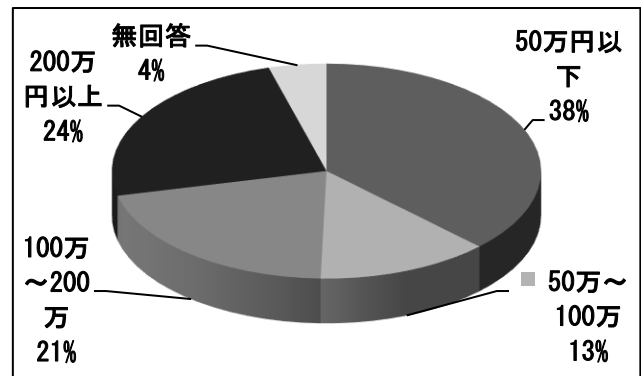
### (1) 農業単独校

#### ア 会計規模

昨年度よりも会計規模が縮小してきている。



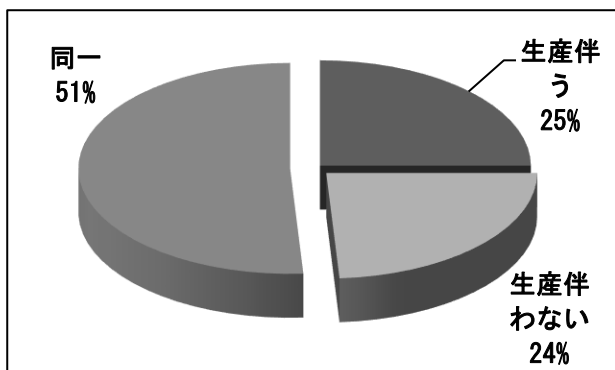
昨年度



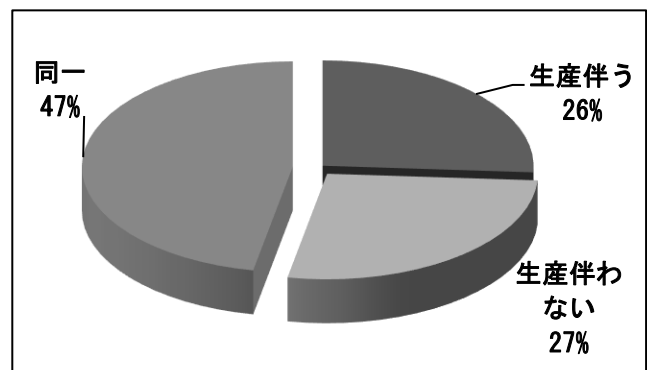
本年度

#### イ 農業単独校における学科の違いによる比較 (一人当たりの実験・実習費)

昨年度とほぼ同様の割合であった。



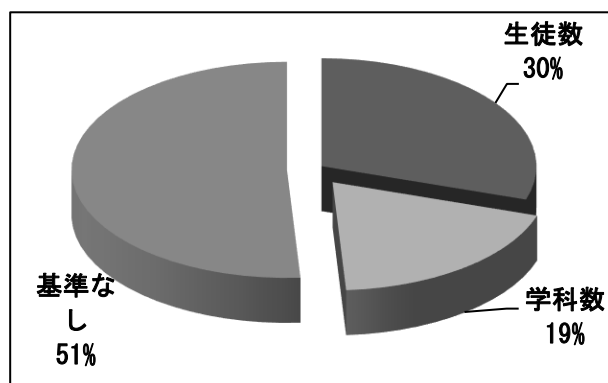
昨年度



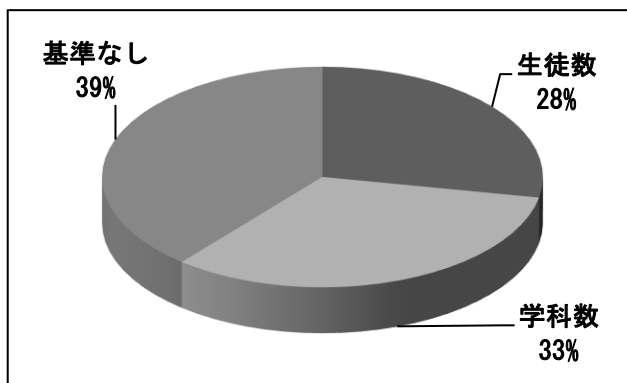
本年度

ウ 分配基準について

「学科数」の割合が増加した。

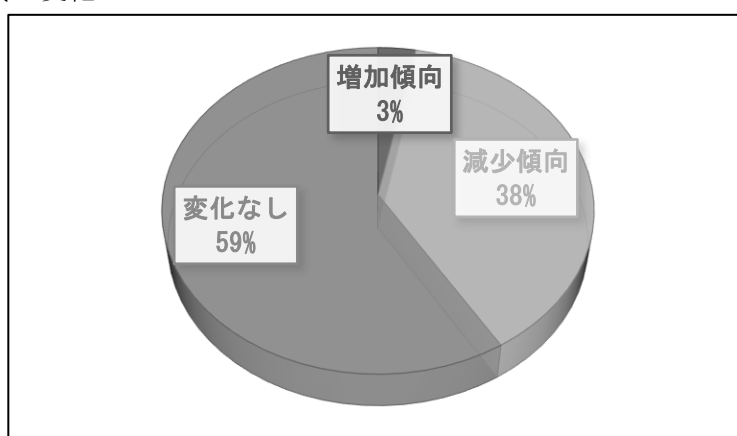


昨年度



本年度

エ 実験・実習費の変化



本年度

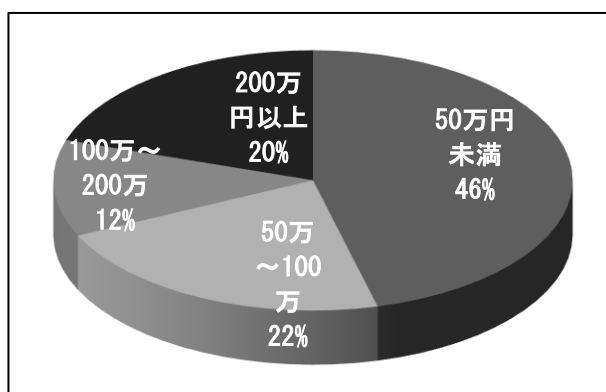
- 【増加傾向の理由】
- ・生徒数減少による一人あたりの分配額の増加個人
  - ・PC購入を求めているため

- 【減少傾向の理由】
- ・自治体の緊縮財政のため
  - ・生徒数の減少
  - ・学校運営費の削減の煽り
  - ・一般予算の光熱費増のため 等

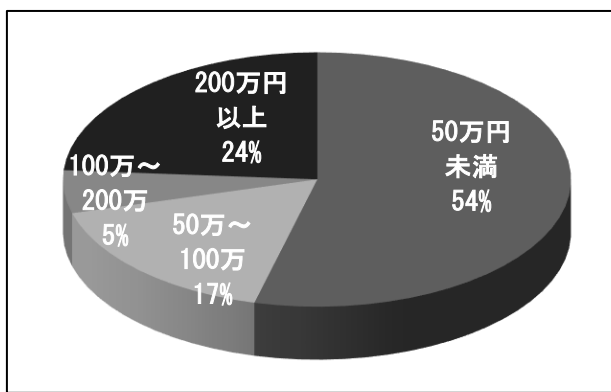
(2) 併設校および総合学科校における学科の比較

ア 会計規模

昨年度よりも予算規模が縮小してきている。

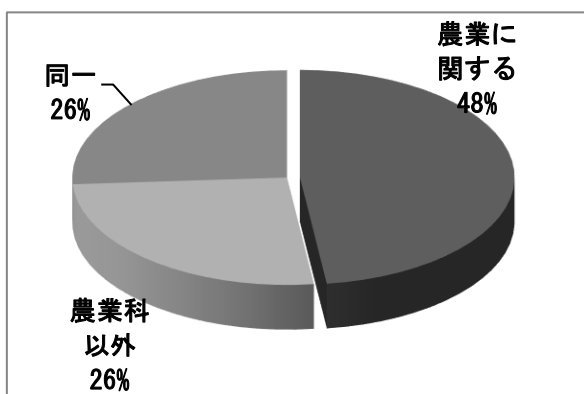


昨年度

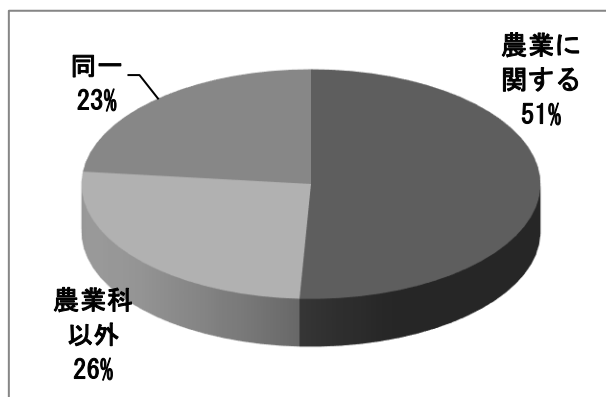


本年度

イ 併設校及び総合学科における学科の違いによる比較（一人当たりの実験・実習費）  
 昨年度とほぼ同様の割合であった。

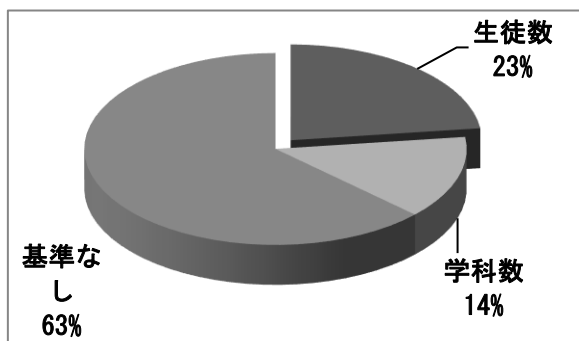


昨年度

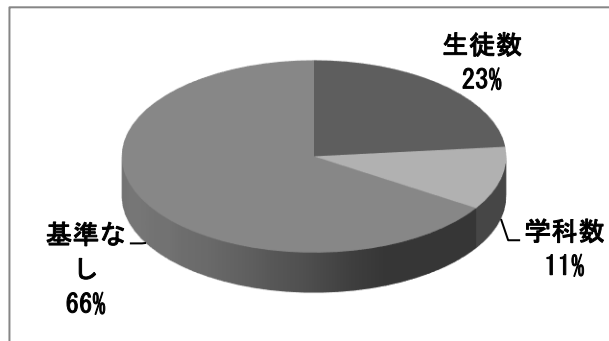


本年度

ウ 併設校及び総合学科校の配分基準



昨年度



本年度

## 6 まとめ

収入を伴う実験実習費における農場売上額と、収入を伴わない実験実習費の減少が顕著になってきている。直接の理由はアンケートからは読み取ることができないが、農場共通経費に関する意見が大いに参考になる。次に整理をしてみた。

- ①都道府県から配分される予算の減少
- ②新しく導入されたスマート農業を実施していくための通信費等の支出項目の増加
- ③施設・設備の老朽化による修繕費の増加。新規購入は難しい。

特に、施設・設備の老朽化は、現在の修繕費で賄っていけないほど深刻な状況に陥っている学校があるように思う。光熱費の高騰によって、今後ますます実験実習費が圧迫することも予想される。